

年 組 名前：

# 県「空飛ぶクルマ」活用へ予算計上 来年度 ヘリで実証飛行

## 経路や実用面 課題抽出

次世代の移動手段として期待される「空飛ぶクルマ」について、県は来年度、社会の理解向上や周知に向けた取り組みの一環として、ヘリコプターによる実証飛行を計画している。飛行経路の安全面や実用面などの課題を抽出し、実現につなげたい考え。

〈小池直輝〉

13日に開会した2月定例県議会に、関連事業費1797万5千円を計上した新年度一般会計当初予算案を提出した。県によると、実証飛行は県内の既存のヘリポートを活用する方針。本年度、調査を進めているルートに近い経路で行う予定という。甲府エリアと富士北麓エリアを結ぶルートや、県内遊覧ルートなどが想定されているが、詳細な調査結果は現在、取りまとめ中という。

県は空飛ぶクルマについて、観光、ビジネス、地域交通の分野での利活用を想定。自治体や民間事業者らによるネットワーク組織をつくるなど、事業環境の整備や社会の

(2025 年 2 月 14 日付 山梨日日新聞 20 面)

### 問1

山梨県は、「空飛ぶクルマ」の活用に向けて、ヘリコプターによる実証飛行を計画しています。そのルートを2つ答えてください。

- .....
- .....

### 問2

山梨県は空飛ぶクルマについて、どのような利活用を想定していますか。

.....

### 問3

あなたは空飛ぶクルマに、何を期待しますか。自由に答えてください。

.....

.....

理解度向上を図っていて、早ければ2020年代後半からの活用を目指した将来ビジョンをまとめている。予算案に

＝関連記事2、24面

められている空港整備を巡っては、来年度、空港の整備費や運営費について調査する方針。県の適地調査の結果「可能性のある候補地を複数選出した」(担当者)としていて、整備や運営に関わる費用を調べ、研究の材料としていく考え。プライベートジェットの利用動向調査にも取り組む予定。関連事業費1898万3千円を予算案に計上している。